

## 日本ラカン協会 第24回大会

日時：2024年12月22日（日）10:00～18:00

場所：東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム1

(ZOOMを利用したハイブリッド形式)

URL :<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/82216570865?pwd=tIrLVzCGR9z3wy2iGhwGFD6bGyNH0S.1>

参加費：無料

### 1. 研究発表① 10:00～10:45（発表時間30分 質疑応答15分）

カントを読むフロイト

—ロンドンのフロイト博物館での調査、またその結果を参照した二、三の仮説—

佐藤朋子（金沢大学）

2024年9月にロンドンのフロイト博物館で発表者が行った、フロイトの蔵書に残された書き込みの調査について、背景、目的、事前の準備、実施の手順と結果等を報告する。また調査の結果とフロイトの著作や他の公刊されている資料を関連づけることをうじて、学問としての地位を心理学に拒否したカントに対するさまざまな反応や反論という文脈のなかでフロイトの試みがもつうる意義について、ジョージ・マカーリの『心の革命』における粗描よりも詳細に論じることの重要性を示し、さらなる研究に向けた仮説を二、三提示することを試みる。

司会：牧瀬英幹（中部大学）

### 2. 研究発表② 11:00～11:45（発表時間30分 質疑応答15分）

美のメタモルフォーシス——ポーの「ライジーア」に読む献身愛の精神分析的効果

河野智子（神奈川工科大学）

ポーの「ライジーア」には、生死の境界で美のイマージュが変身する、美のメタモルフォーシスが見られる。ライジーアが死後に別の女性に転身することは、ラカンが美の機能を見出すアンティゴネが、アーテーの彼岸に立たされたとき、苦悩の鳴き声を放つ鳥のイマージュになることと、その原理を同じくする。本発表では、ポーの物語を貫くように描かれる、ライジーアが語り手に示す自己犠牲的な献身愛をたどりながら、最後に強烈な輝きを放つ出現するライジーアのイマージュにラカンが定義する美の機能を探り、語りの導きで起こる美のメタモルフォーシスがもたらす精神分析効果を論じる。

司会：原和之（東京大学）

### 3. 昼休み 11:45～13:30

\* この時間に理事会が開催されますので、理事の皆様はご参集下さい。

### 4. 総会 13:30～14:15

- ①議長選出
- ②会務報告 論集刊行に関する報告など
- ③決算（2023/2024 年度）審議
- ④予算（2024/2025 年度）審議
- ⑤次年度活動計画について

### 5. 大会シンポジウム 14:30～18:00

#### 「『エクリ』について」

提題者：河野一紀（梅花女子大学）、片岡一竹（早稲田大学博士後期課程）、  
上尾真道（広島市立大学）

司会：原和之（東京大学）

\* 詳細については、当協会 HP を御覧下さい。

以上